

「自治のかたち」検討プロジェクト

シリーズ9

「圏域5市町村の連携に向けて」

消費者相談・日常相談・法律相談・図書館(室)の広域利用

道からの提案に対する検証

3月の最終報告に向け、5市町村長に対する経過説明を12月27日に行いました。

北海道から提案された「基礎自治体としての規模(住民サービス充実の観点から目安となる人口規模3万人・効率性の観点から目安となる人口規模5万人)」に対して、富良野圏域の状況を分析する中から、圏域5市町村が合併することによって解決することが可能か、合併以外に市町村連携や広域連合など広域行政の手法により解決することが可能か、の視点に基づき客観的な検証を報告し、最終報告に盛り込むことで確認されました。

広域での取り組み

広域で担うことが望ましい事務事業については、5市町村での事務事業内容を調査し、広域的な対応をすることで今以上の住民サービス向上を図ることができないか、住民との役割分担や協働で行うことでサービスの質と効果が改善されないか、すでに広域で事業が行われているものについて、現状で行政効果は十分に果たされ

ているか、また、事業目的の向上のためにさらに検討が必要ないか、将来的に行政運営の効率化のため、「自治のかたち」(市町村連携・市町村連合・市町村合併・広域都市)への検討の余地はないか、の視点から、各市町村の担当部局との協議も踏まえ、12事業について報告および経過説明を行いました。その中でも消費者相談・日常相談・法律相談・図書館(室)の広域利用・職員研修については平成18年度から実施することが確認されました。

広域連合に関する検討

行政サービス提供のかたちとし



富良野沿線総務担当者会議の様子

で、「広域連合」がありますが、5市町村による水平連携と、北海道との垂直連携を合わせた、圏域5市町村と北海道との広域連合である「富良野圏域センター」構想について、農業分野に焦点をあてた「農業センター計画」を提言し、さらに検討を進めることが確認されました。

今後に向けて

3月の最終報告後については、各市町村の自主的判断により住民からの意見集約を図り、市町村長会議において今後の方向性を判断することになります。どのような選択肢を選ぶのかに関わらず、今後も広域的な視点での検討は必要不可欠です。

今までの協議・確認事項を踏まえ、今後の最終報告に向けてまとめを行います。

問い合わせ先

「自治のかたち」検討プロジェクト

☎ 2311

ホームページで検討状況を掲載していますのでぜひご覧ください。
・ホームページアドレス

<http://www.nakafurano.jp/jif/index>